

<JAC のアワードをいただいて> (椎橋卓見_電通クリエイティブ X)

■JAC AWARD の受賞年度

2007 年、広告制作業界の発展を鑑み、若手プロデューサーと PM を奨励する為に創設されたのが「JAC AWARD」。ありがたいことに、その第一回にプロデューサー部門のグランプリをいただきました。当時 33 歳だったので、遠い昔のことですが、現在も私のプロフィールに「JAC AWARD グランプリ受賞」と記載しています。というかプロフィール内で「一番輝いている」と言っても過言ではないです。笑

■応募の動機

当時から制作業務自体が大好きで（勿論、今でも）、制作した広告自体や担当 CR の方々が受賞することも、とても嬉しく思っていました。その一方で「こんなに時間を掛け、困難を乗り越えて制作しているのに、プロダクションスタッフの賞が無いのは何故なんだろう。」と思うこともありました。思い返せばチーフ PM 時代、一度だけ、ACC 賞の「スタッフ賞」というのをいただき、担当 CD から「椎橋くんも一緒に登壇しよう。」と言われた時は嬉しかったです。そんな気持ちもあり、JAC AWARD の募集を聞いた時は「これは僕らの賞だ。応募しなければ。」と、使命感のような気持ちを抱いたことを覚えています。

■JAC AWARD を受賞して…

まず、受賞して思ったことは「自分以上に周りの方々が喜んでくださる。」ということです。田舎の家族、CR の方々、広告会社営業の方々、会社の同僚や後輩 PM…「支えられて生きていく」、そんなことを実感することが出来ました。仕事面では「グランプリ受賞で新規の仕事をいただいた」というような記憶は、残念ながら全くありません。（笑）ただ、当時、ご一緒してくださった方々との「絆」は確実に強くなり、某飲料会社の主力 6 商品中、4 商品を任せていただくなど、既にご一緒していた案件の「受注件数や規模が圧倒的に増えた事」は確かです。そして、その方々の多くとは、いまだに仕事でご一緒しています。それは、これからも続くと思いますし、そうしなきゃいけないとも強く思います。他に受賞効果のようなことを挙げるのであれば、内面的に「自信」が持てたことです。その自信は、プロデュース業務は勿論、組織を運営するような立場になっても全く揺るぎません。私の自信を構成する一つは、間違いなく「JAC AWARD のグランプリ」です。

■プロデューサー、PM の皆さんに伝えたい事

「忙しい中、応募するのだから受賞したい。」そう考えるのは当然です。ただ、応募する事自体に「自分が何者であるか」という答えのようなものがあると思います。「仕事を振り返り、自分の存在意義を明確にする機会」、そんなふうに JAC AWARD を考えてくれたら嬉しいです。そして、是非、応募してください。これは「みなさんの賞」なのだから。